

1. 陶芸の森の設置目的等について

- ・ 陶器産業の振興・陶芸文化の向上という設置目的の達成に向け、「情報発信ツールの拡大」、「DX,GX」、「SDGs、MLGs」、「地方創生」、「グローバル化」、「窯業技術試験場の移転」といった設置時からの状況の変化を踏まえつつ、各種事業の事業間の連携だけでなく、地域の様々な主体と連携しながら取り組む必要がある。
- ・ また、陶芸の森だけでなく、地域の様々な主体と連携しながら取り組む中で、陶芸の森の役割を明確にしつつ、信楽のまちづくりの中心としての機能を果たしていく必要がある。

2. 陶芸館について

- ・ バリアフリーに対応できていないなど、展示以前の問題として利用者が快適に過ごせる空間とするため、様々な個所について改良が必要である。
- ・ 現在の収蔵庫、展示室は老朽化だけではなく、美術館としての設備・容量面で不十分な点があり、質の高い展示、世界に誇れる陶芸の森を目指すのであれば、基本的な設備の改善を実施すべきである。そうして標準以上の設備を整えていかないと将来を見据えることはできない。
- ・ 収蔵品の有効活用のためのデータベース化(将来的には、デジタルアーカイブ化することでより幅広く情報発信するための仕組みづくり)。また、来園者に信楽焼を知ってもらう観点からも常設展の展示スペースの検討は必要であるが、今の陶芸館ではスペース的に難しく、産業展示館等の活用も含めて検討する必要がある。
- ・ 収蔵庫のスペースについては、空間の有効活用、利用頻度の少ないスペースの改修による拡張などによる確保の検討が必要